

上田の莊園と武士

下

信濃國塩田庄

殿

補任地頭職事

左兵衛尉権宗忠久

右人為地頭職從行庄務
所年貢以下任先例可致
其勤之狀必件以下

文治二年五月八日

目次

口 絵

刊行のことは

上田市誌刊行会長

上田市長 平尾哲男

監修のことは

東京大学名誉教授・前国立歴史民俗博物館長 石井進

まえがき

凡 例

はじめに—この本の課題 1

氏文読み 氏文読みにおける中世武士の属性 鎌倉殿の御家人 課題 その(1)武士と荘園
課題 その(2)生活と文化

第一章 都へ向かう武士

第一節 増えてきた庄園 7

一 庄園の成立 7

(1) 八条院領常田庄 7

官符をもたない常田庄 八条院領常田庄の成立

(2) 最勝光院領塩田庄 9

目次

二	中世初期の庄園……………	12
	塩田庄の成立 最勝光院領塩田庄 立庄にかかわった人々 庄園の成立	
	『吾妻鏡』文治二年の記録 日吉社領浦野庄 小泉庄は一条大納言家領 殿下渡領海野荘	
	前齋院御領依田庄 『吾妻鏡』には載らない上田庄 小泉郡内の牧と貢馬の消滅	
三	庄園と公領の実際……………	21
	(1) 庄園と公領……………	21
	庄園 寄進地系庄園の急増 庄園の職と得分 庄園と公領の比 公領と知行国主 下級の荘官と地頭	
第二節	開発領主……………	27
一	手塚氏……………	27
	手塚氏の開発所領 手塚光盛と諏訪盛澄 手塚氏の関係史跡 手塚氏の系譜	
二	浦野氏……………	31
	浦野氏が登場するのは 浦野氏の開発所領 浦野氏の系譜	
三	そのほかの開発領主……………	33
	そのほかの開発領主	
四	都へ向かう武士……………	34
	戦乱への参加 任官をめざして都へ	
第三節	保元・平治の乱……………	35
	保元の乱 皇位継承のもつれ 摂関家内部のもつれ 源氏内部の嫡子争い	
	信濃から馳せ参じた武士 平治の乱	

第四節 木曾義仲の挙兵……………40

一 旭將軍義仲の生涯……………40

木曾義仲の生涯 木曾義仲の生い立ち

二 義仲の勢力の確立……………42

義仲挙兵のころの動き 義仲の根拠地依田館 義仲に従った小県地方の武士 白鳥川原の勢揃へ

横田川原の合戦

三 京都への進撃……………48

頼朝との不和 般若野の合戦 俱利伽羅峠の合戦 手塚光盛と斎藤実盛 義仲と比叡山延暦寺

義仲の都入り

四 義仲の栄光と挫折……………53

義仲の不評と衰運 法住寺殿攻め 義仲の挫折

第二章 鎌倉時代の上田

第一節 鎌倉殿の御家人に……………59

一 義仲配下の武將に対する頼朝の処遇……………59

頼朝の裁き 頼朝に許された武士たち

二 御家人となった信濃の武士……………61

信濃武士の御家人化 上田地方の御家人

目 一 御家人の社会……………64

田中光氏讓状と地頭職安堵 鎌倉武士の相続と安堵 鎌倉番役や京都大番役 戦乱と御家人
鎌倉を向く地方武士

二 小泉荘と泉氏……………68

泉親平の謀略が発覚 上田原平三 室賀郷の六町余善光寺へ寄進 小泉荘 頭役注文の小泉荘頭役人
泉氏 浦田に中世の遺跡を発掘 比志島文書所領目録断簡 小泉荘の影絵

三 塩田庄と地頭の島津氏・北条氏……………78

(1) 島津氏……………78
島津忠久塩田庄の地頭となる 島津姓と惟宗姓 比企氏が後ろ盾 文治二年正月の袖判下し文
比企氏の滅亡と島津氏

(2) 塩田北条氏……………83

北条義政が塩田荘へ遁世 連署北条義政 鎌倉武士二番目の負担額 義政引退の事情 塩田北条氏
塩田北条氏の残響

(3) 領主と年貢……………88

鎌倉時代後期の年貢納入状況 地頭の年貢抑留 荘園領主が東寺に替わる

四 浦野荘と浦野氏……………90

日吉社領浦野荘 浦野荘と尊長法印 日吉社領注進記 承久の乱と浦野氏 六条八幡宮造営注文
常田荘の藤原信実……………97

常田荘の新しい史料 その裏文書は承久二年 造内裏役免除の申請許されず 藤原信実とはどんな人か
藤原信実の職 常田荘の伝領

六 上田荘と大江・大田氏……………102

上田荘の名は鎌倉末期に	上田荘の頭役注文	上田荘と大田氏	備後国大田荘に大田氏流上田氏
大田氏が上田を名乗るわけは	霜月騒動の殖田又太郎	大江氏流の上田氏	上田太郎の棟札写と太郎山
上田荘との関係Ⅱ上田荘地頭Ⅱ	再び比志島文書断簡		
七 諏訪部氏	………	………	………
諏訪部氏とその本貫地	善光寺奉行人と五廳の地頭	三刀屋郷は承久の乱の恩賞	三刀屋郷の伝領
『三刀屋文書』とその後の動向	越後国佐味荘赤沢村地頭職	諏訪部氏	
八 上田と東部にまたがる海野荘	………	………	………
弓馬の兵海野氏	上田と東部にまたがる海野荘	海野荘	
九 浦野・坂木と薩摩氏	………	………	………
有坂氏など薩摩氏の一族	村上氏と村上御厨		
第三節 鎌倉時代の交通	………	………	………
一 鎌倉時代の道	………	………	………
中世の道	千曲川沿いの道	上州への道と松代への道	府中への道
海野・林津への道			鎌倉への道
			善光寺への道
二 日理駅跡と天王坂	………	………	………
『一遍聖絵』から信濃人の往来と市	市がたった場所境目の地域	諏訪部の天王坂	神川の天王と市坂
三 塩田平における鎌倉への道	………	………	………
鎌倉への道	塩田平の道筋		
第四節 鎌倉時代の文化	………	………	………
一 仏教における新風	………	………	………
中禅寺の薬師堂とその周辺	塩田は信州の学海	安楽寺開山樵谷惟僊と蘭溪道隆	三楽寺と院内

別所の地と鎌倉期の仏教文化 聖一遍の新風

二 諏訪の神と信濃武士のかかわり……………146

信濃武士と諏訪社 諏訪上社の祭り 頭役 嘉暦四年「諏訪上社頭役注文」

諏訪上社造営を分担した郷村 下社の役は？ 再び諏訪社と信濃武士のかかわり

第五節 武士の館……………152

武士の館跡 手塚の大城 五加の館跡 東前山の館跡 浦野の館跡 築地の館跡

岩門の館跡(堀之内) 常田の館跡

第六節 鎌倉幕府の滅亡と上田地方……………166

一 鎌倉時代末期の社会情勢……………166

三刀屋郷諏訪部氏の所領相論 所領をめぐる相論の増加 鎌倉末期の社会 力を失った幕府

後醍醐天皇の就位

二 鎌倉幕府の滅亡と上田小県地方の武士……………170

鎌倉幕府の滅亡 元弘元年の幕府軍に従軍 元弘二年の甲斐信濃の軍勢 塩田北条氏の滅亡

足利高氏に呼応した人たち

第三章 南北朝時代

第一節 建武の新政と信濃……………179

一 新政の混乱……………179

建武の新政と南北朝の時代 市河助房、新田と足利に着到 市河氏いち早く国宣を申請

足利高氏から尊氏へ	
二 中先代の乱	182
中先代の乱	
更埴河原の戦い	
鎌倉の攻略と足利方の奪回	
三 薩摩氏勢力の消亡と塩田荘	186
有坂氏の滅亡	
坂本北条の戦いと薩摩氏の消亡	
村上信貞戦功で塩田荘を領有	
建武新政の崩壊と室町幕府開創	
第二節 南北朝時代の動向	191
一 足利与党の人々	191
(1) 安保氏と室賀郷	191
安保氏	
室賀郷地頭職	
(2) 出雲の諏訪部氏	194
出雲の諏訪部氏	
(3) 奉行や評定衆になった依田氏	195
奉行や評定衆になった依田氏	
二 観応の擾乱	197
室町幕府の二頭政治	
尊氏と直義の対立	
観応の擾乱	
信濃における両派の戦い	
尾野山の合戦	
不思議な白田光重の讓状	
武蔵野合戦	
笛吹峠の合戦	
第三節 南北朝の統一と信濃	205
南朝勢力の衰退	
信濃の守護	

執筆分担
あとがき
参考文献
上田市誌の編さん組織

表 紙

源頼朝下文 島津忠久が塩田庄地頭に補された補任状 (東京
大学史料編纂所蔵)

裏表紙

角川書店刊新修日本絵巻物全集11 『二遍聖絵』から「小田切
里の武士(小田切氏)の家」―鎌倉時代弘安年代のようす―

上田市誌 歴史編(4)

上田の莊園と武士

発行 平成十三年十月一日

編集者 上田市誌編さん委員会

発行者 上田市

上田市誌刊行会

上田市大手一―一―一六

電話 〇二六八―三―四二〇〇

印刷所 信毎書籍印刷株式会社

長野市西和田四七〇